

## 第12回 総合計画市民会議 議事録

日 時 平成16年6月19日(土) 午後2時00分 ~ 午後4時30分

場 所 産業振興会館 第3研修室

企画調整課長

大分蒸し暑くなってまいりましたけれども、きょうもよろしくお願ひいたします。来週には鈴木さん、幹事役いただいて終わった後に交流会の時間も次回あるようですので、それも楽しみによろしくお願ひします。

では座長さん、よろしくお願ひします。

座長

それでは第12回、総合計画市民会議を開催したいと思います。きょうは市の中間報告にあった六つなり七つの柱の中の三つの柱について課題抽出と、それから施策の提案の議論をしたいと思います。それでは早速会議に入っていきたいと思います。前回の会議は基本施策の中の四つの柱、「安全で暮らしやすいまちづくり」「人を育て心を育むまちづくり」「幸せな暮らしを共に支えるまちづくり」自治について課題抽出を行いました。抽出された課題はこの市民会議の中間まとめにあったものとあわせて一つの資料にするように、今事務局の方にお願ひして、参考資料として最終回に出せればと思っています。

それから施策の議論は市民自治、市民パワーといったキーワードがあったかと思うのですが、それをテーマに施策の議論をしていきました。その中の内容に関しては主に市民パワーを生かすための仕組みづくり、共同・共助の整理、個人を生かす仕組みづくりなどの観点の意見がありました。7月3日の会議でこの内容について確認していきたいと思っています。

それではその次、連絡と報告事項になります。事務局の方、お願ひしたいと思います。

企画調整課長

一つは策定検討委員会の日程ですけれども、この後6月29日火曜日ですが、夜の6時から川崎区のいさご会館という場所で、テーマは基本政策の柱でいいますと「幸せな暮らし

しを共に支えるまちづくり」という分野と、それから「人を育て心を育むまちづくり」という、この二つをテーマにさせていただいて、議論をしていただきます。それからその後は7月6日のやはり火曜日なのですけれども、6時からこれは場所はいさごですか。同じいさご会館という場所で、この策定検討委員会ではこれまでの議論のまとめというか、総括的な議論をしていただく予定にしています。

それから策定検討委員会というか、座長さんのメッセージにも入れていただいているのですが、7月14日にできましたら策定検討委員会と市民会議の合同会議をぜひお願いしたいと思っております、7月14日水曜日で、これ時間は6時半からを今一応予定していますが、場所は中原区役所を予定しております。よろしく申し上げます。日程は以上ですが、それからもう一つ事務連絡ですけれども、来週24日に臨海部の方のゼロ・エミッション工業団地と、それからペットボトルのリサイクルの施設、プラントの視察をしていただきますので、今7人さんぐらいみたいですが、委員さんの参加で24日の午後に視察をさせていただきます。

以上です。

座長

ありがとうございました。策定検討委員会との合同会議、7月14日、この会議では市が発表する総合計画基本構想素案の前の段階の資料、前回の合同会議を行ったときに、素案になる前の、発表する前の段階の資料を策定検討委員会、それから市民会議と合同で最終になる前の資料を確認して、その中で盛り込むべき意見はないかということを出していく会議です。追加の日程になってしまって申しわけございませんが、こちら参加のご協力をお願いいたします。

それから、基本構想の素案に関して、1回だけのフィードバックしかできなかったのですが、さらに別な形、会議以外の形でできないかということについては、難しいけれども事務局の方に考慮をお願いしております。これは中間報告が出たときに市民会議策定委員会への説明の前に出ていて、むしろ出た資料を理解するというよりも、その場でいろいろなフィードバックがあったので、それをできるだけ減らすということのために事務局の方に配慮をお願いしていますが、非常に難しいのですが、何らかの形で可能になるのではないかと期待しております。

それから、連絡事項のもう1点は、六つの柱についていろいろな意見がこのままでいく

と審議の時間が十分にとれないなど、出席できないなどの背景から、何らかの形でアンケートをとるということについても事務局に今お願いしております。それについてはどのようになっているか。

#### 企画調整課長

今準備しております、正副座長さんともちょっとアンケート的なものをやらせていただくということで、来週中というか、来週半ばぐらいまでにアンケートというか、その内容が大体整理できると思いますので、送らせていただいて、そんなにたくさんというか複雑な形にはなるべくしない方がいいかなということで、正副座長さんとも打ち合わせさせていただいておりますので、それがまとまりましたらまた送付をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### 座長

以上で、連絡報告事項を終わりにしたいと思います。

次は3番、「基本施策について(3つの柱)」この中間報告の中のこちらの三つの部分についてきょう議論になります。「環境を守り自然と調和したまちづくり」「活力にあふれる躍動するまちづくり」「地域の魅力が輝く自治と風格のまちづくり」ただし、自治は前回やりましたので、自治の部分を除くということで、分散会を始めたいと思います。ここでグループに分かれて司会役を決めて、解決すべき課題をここで改めて抽出するという作業をお願いしたいと思います。後半の施策については、出てきた課題の中から全部は話せないというのは前回もお話ししたと思うし、理解していただいていると思いますので、どう選ぶかというのは発表の中から考えていきたいと思いますので、その点も皆さんご協力をお願いいたします。

それでは、こちらにあるようにA・Bに分かれております。AとそれからBなので、それぞれの場所へ行って正副座長が司会を決めるまでの進行をしますので、できるだけ早く司会を決めて進めていただきたいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

#### 市民委員

ちょっといいですか。ここの議題の2なのですけれども、「活力にあふれる」というの

と「地域の魅力」というのと、あと「環境を守り」というのは、これはないのですか。

市民委員

これは違うのだよ。

市民委員

違うんですか。

市民委員

この資料はきょうのではないみたいだから。

市民委員

これは違うの。

市民委員

ああこれは策定委員会ですか。失礼しました。

座長

そうしたら、参考資料について確認してもらった方がいいですかね。では事務局で参考資料の方の確認をお願いします。

企画調整課長

すみません。ちょっとご説明させていただきます。きょうはあわせて配付になってしまって、ちょっと遅くなってしまって申しわけありません。この横長でとめてある一連の資料なのですが、今週6月15日の火曜日に第10回目の総合計画の策定検討委員会の方が開かれまして、そのときここに次第にありますように二つ、「活力にあふれ躍動するまちづくり」という政策と、それから「地域の魅力が輝く自治と風格のまちづくり」という二つをテーマにして議論をしていただいたのですけれども、そのときに事務局の方から議論の素材として出させていただいた資料です。

ただ二つ目の「地域の魅力と自治」の部分の中で、自治の部分については市民会議の中でもあれですけれども、非常に大きな課題であるし、ある意味では六つの政策全般にかかわる部分ですので、これについては策定検討委員会の方でもちょっと別途のときに議論をいただくということで、この間の15日は自治の部分についてはまだ議論をしていただいております。

座長

策定検討委員会は、市からの資料に基づいて検討する場所であり、市民会議は生活する市民として意見を出すということなので、今回の資料はあくまでも参考として見ておいてください。きょうは自分が持っている意見をどんどんと出して行っていただきたいと思います。

それでは、グループに分かれてください。

(休憩)

座長

それでは、後半の全体会を開催したいと思います。まず、ここまでの討論の内容について、Aグループ、Bグループでちょっと前回と同様、三つを交代で、A・B・A・Bの順番で説明して行っていただきたいと思っております。

それでは、「環境を守り自然と調和したまちづくり」の部分をAグループの方から簡潔にお願いします。

市民委員

持ち時間どのくらいですか。交代で6枚やるのでしょうか。

座長

1分、2分のオーダーで。

市民委員

全部終わるのが何時目標ですか。

座長

今特に目標を設定していないのですけれども、今設定しましょう。15分ぐらいで終わりたいですね。

市民委員

では3時半までにこの全部の説明が終わって討議に入る。

座長

そうです。

市民委員

15分でこれだけね。それではAグループから行きますけれども……、

座長

全部言う必要はないですから。

市民委員

「環境を守り自然と調和したまちづくり」について、Aグループの意見ですけれども、一つは行政に対してはCO<sub>2</sub>の削減に対して川崎市の数値目標というのがはっきりあるのだそうですけれども、それをきちんともう少しはっきり出してほしいということが一つありました。それから廃棄物や自然循環については、市民、住民の生活者としての規制とかいろいろごみを少なくしましょうとやっていますが、それと同時に産業やあるいは商店が出す事業系のごみの規制とといいますか、それも数値化するなどして、両方でやっていかないとごみ問題は達成できないのではないかとというのが一つと、それから考え方としては、ごみというのは一方では資源であるという考え方をきちんとしましょうと。ごみは一方では資源である。したがってフリーマーケット等でリサイクル、三つのRとかという言い方がありますがけれども、それ循環も考えていこうというふうなことです。

それから最近事業系ごみの話も少ししましたけれども、企業としても企業の環境ボランティアを義務づけるとかいった、企業も営利目的ばかりではなくて、環境に配慮した社内

システムやごみの出し方も研究していこうということでございます。あとは原っぱを。それから緑の保全を考えると、我々はどうしても大人の視点でばかり考えていくのですが、緑の保全、創出、育成については子供の視点をきちんと入れ込んで折り込んで、子供の遊び場、子供がすくすくと育つという、そういった子供の視点をきちんと入れ込んで緑の問題を考えていきたいと思いますということなんです。

それから都市農地の話ですけれども、相続税の問題がやはり指摘されました。それからさっきの後で出てきますが、川崎のいろいろな産業政策の中に、都市農業政策です。都市農業というものを産業政策の中にきちんと位置づけて、調和のとれた産業開発をやっていきたいというのが重立った意見です。あと市街化調整区域の見直しとか出ておりますけれども。

以上です。2分ぐらいですか。

座長

Bグループ、お願いします。

市民委員

今こちらで出たところは、私は省いていきます。一番いろいろ地球環境のことなので、けれども、一つは通過交通の問題というやつが前から出てきているわけです。今でもこれはここを通ってもらわなければ、この川崎を通過していただかなければもういいわけですが、そのためにはやはり圏央道の早期完成、人のところに押しつけるわけではないのですが、けれども、平等にそういうものを負担しようという考え方から、圏央道もどこかでまだ行き詰まっているのですか、海老名まで行っていますね。そういうやつをもっと早くやってくれということ川崎としても、実害が川崎にあるわけですから、一生懸命プッシュしてもらいたいという考え方です。

それから、ここでは古い木造建物がマンションになってくるということに対する規制をもっとやらないと、温暖化に対する防止にならないというふうな考え方です。それから廃棄物のことについては、先ほどちょっと出ましたけれども、分別について企業がもっと分別したりなんかして、回収へ努力をすることを促進しようという考え方です。それから食べ物、これもリサイクルの中で肥料化をもっと積極的に進めるべきだと。

それから産業分野における環境貢献の推進なんですけれども、ここでは割とラジカルな

考え方が出ていまして、脱産業立地、もう産業は川崎はいいのではないかと、それよりもっと環境と福祉を重点としたそういう考え方に変えていくというようなことです。それからここの中では環境については、もう大人は教育してもだめだと、これからはやはり子供を中心に、環境教育、これを略すると「環育」という言葉なのだそうですけれども、そういうことを、子供をもっと徹底的に教育しようということです。

それから緑については、NPOが緑化とか自然の保全、そういうような景観づくりにかかわっていますけれども、それをもっと市民もそれから自治体も支援するような、そういう仕組み、これが必要だろうということです。トラストをつくった場合にもその場合は例えば税金を安くするとか、なんかそういうことが必要だろう。それから都市農業、これは都市農業についてももっと高齢者が生きがいというふうなことで、高齢者の生きがいを創造するような形の都市農業、これを展開すべきだろうという考え方。それから多摩川については、具体的なことが出ていまして、多摩川全行程を歩けるような、そういう環境をつくろう、散策路というのですか、それを整備しよう。それから臨海部の海の公園を整備しよう。これは一部東扇島にできるようなニュースがありますけれども、あれでは遠くてだめだぞ、何とかしてくれというような感があって、全体的にはこれもこれから恐らく中で討論をしなければならないのですけれども、共生だ、共助ではないのではないかとというような意見が出てきまして、どうもこれから課題を皆さんにご提供するようなことになりそうです。

以上です。

座長

ありがとうございました。今度はこのままでいいですか。ではどうぞ。

市民委員

それから5番目、「活力にあふれ躍動するまちづくり」についての、Aグループですけれども、この新産業を創出するコミュニティビジネスというのと、あわせて連動して考えると、これ新産業創出というのは、今若い人たちの職業がどんどん減っていっていますね。だから若い人たちの雇用を充実させるという意味でも、新産業創出に当たっては若い人の仕事を創出すると。教育と連動して若者の職業をつくり出していくということを主体にして、このコミュニティビジネスの方は、今度は団塊の世代がどっと2～3年したら定年に



なって帰って来たりしますので、こちらはシニア、60歳代の就労に関心を持って、クオリティビジネスを今までの経験やら何やらを生かしてつくっていったらどうだと。若年層とシニア層の仕事の創出ということが議論されました。

それからもう一つは、今国際化の多文化共生いろいろありますけれども、アジア系の起業家村というのですか、そういった一つのいろいろなアジア系の出身の方のいろいろな才能を持った技術や資金を持った人たちのネットワークをつくって、その人たちが仕事をどんどん作り出していくという、インキュベーションという言葉が出ましたけれども、そういった仕組みづくりが必要ではないかというのが一つです。

それからあとは商店街の活性化で問題になったのは、今はシャッター街でシャッターがおりて、そのままになっているところがあるのですが、せっかく補助金事業というのは市がやっているそうですけれども、これがなかなか使いにくい。特に若い人たちもそういった補助金や事業で何かやろうとしても、壁があってなかなか手続上使いにくい。もっと使いやすくしてほしいと。それが商店街の活性化に一役買うのではないかという話です。それから国際化の羽田空港の話。これ羽田へのアクセスがせっかく川崎が一番近いところにあるのに、横浜回りで羽田へ行かなければいかんという状況があって、それにはいずとかいろいろな用地の問題があるのですけれども、川崎から川崎市民がストレートに羽田空港に行けるアクセスをきちんと整備すべきではないかということです。

それからこの広域ネットワークの充実ですけれども、川崎は南北に南武線、それから尻手黒川線、それから府中県道とありますが、この特に道路の渋滞がひどい。駐車、停車問題があるのでここを一挙に整備する。一方で南武線をもう少し増便するなり、急行を走らせるなり、鉄路と道路の整備をきちんとやって、南北の流通をよくするという話が出ました。それから都市計画道路というのはもう何十年も前に始まって、30年ぐらいたっているのですけれども、やるのかやらないのか進捗状況が非常に悪いと、抜本的に見直してはどうかという話でございました。それから人を引きつける魅力的な駅周辺開発が、やはり広場が必要だと。人が群れる、人が集まる、そこで何かが生まれてくるという、アイデアとか非常にクリエイティブなものができる一つの拠点として、駅前広場の創設が必要であろうということと、それから最後にこの川崎の臨海部というのは、我々が居住しているところと全然別のところだという意識があるので、臨海部と居住地と運河かなんかをめぐって、ここに行き来できるような、そういうここにはスロー・トランス・ポテンションというのを書いていますが、多摩川が連動して、そういう仕組みもつくったらどうかとい

うのが一つ。

最後に、この5番の「活力あふれる躍動するまちづくり」というのが、どうもこれのコンテンツは「川崎のポテンシャルを活かし、伸ばす政策体系」とあるのですが、それとこの「活力あふれる」とはうまく結びつかないので、名前を変えたらどうだと。

以上です。

#### 市民委員

ここではものづくり機能の発展ということですが、マイスター制度です。これを匠の育成ということで、もっと積極的にやってくれというふうなことです。それから新産業の創出、この中では、これもちょっとラジカルなのですが、脱観光化、一方では観光をもっと盛んにしようという動きがあるわけなのですが、いやもう川崎の観光イメージというのはどこかででき上がっているものがあるのだ、そういうイメージから払拭するために、この際余りそういう意味での観光ではない観光があるのだと思いますけれども、今あるような観光イメージからはこれを脱却していった方がいいというような考え方。それから脱工業、工業というものについてはもう川崎はそういうものではなくて、福祉産業とか、そういうところに中心を移していくべきだという考え方です。

それからコミュニティビジネスですが、生活中心主義のNPO、これをここにもNPO型の企業というのがありますけれども、生活中心主義のNPOを立ち上げるべきだ。それから地域通貨の問題が出ています。それから商店街の活性化ですが、空き店舗、これを活用するNPO、NPOを活用した空き店舗の対策ということです。もう一つは空き店舗の活用に、空いたところを老人クラブにする、街角老人クラブとか、それから街角美術館とか、そういうふうにすると、これからもっともっとそういう高齢者の方がふえてきます。その人をまちに呼び込もうということです。それは当然活性化になるわけですので、こういうことです。

それからこの羽田空港については、どうも国の政策で動かされているような感じだけでも、もっと川崎としての主体性を持った動きをやるべきだという考え方です。それから広域ネットワークを重視した交通基盤ということでして、トロリーバス、昔トロリーバスって走ってましたよね。トロリーバスをこれから復活させた方がいいのではないのかという考え方、これも非常にユニークです。それからもう一つは川崎市内は細長いわけなのですが、もう北から南まで60分で到達できるような、そういう交通体系を何か考え

るべきだという提案です。

それから人を引きつける魅力的な駅周辺再開発ということでは、たくさん出ています。やはり川崎ならでも、そういう駅の周辺のまちづくりということをやすべきであって、全国どこでも同じような駅前テナントショップ、こういう考え方からはちょっとよけて、もうちょっとユニークなやつをやすべきだという考え方。それからもう一つは南武線の改革の第1歩は、ネーミングを変えたらどうだという考え方です。大体こんなことが出ました。以上です。

座長

ありがとうございました。そうしたら最後になりますが、お願いします。

市民委員

それでは「地域の魅力が輝く自治と風格のまちづくり」です。まず音楽ですけれども、音楽というどうしてもミュージアムができて、クラシックがメインになりそうなのですけれども、それはそれとしても、若い人たちのロックとか踊りだとか、あるいは多摩川音頭のロックというのは今も歌われているそうですが、そういった若い人たちの好みの音楽などもきちんと取り上げて、総合的な音楽のまちづくりを進めたらどうかと。もう一つですが、音楽のまちづくりって、唐突にミュージアムができて叫ばれ出したのですけれども、では具体的にどうこれから進めていくのかというプロセスが見えない。そこをもうちょっとはつきりしてはどうかということでした。

それから文化芸術については、これも若い人たちのアートフリーマーケット、フリーマーケットに対して流儀とかそういうイメージがあるのですが、若い人たちのつくった作品、アートをフリーマーケットでやっていくという、そういう流儀、仕組みも開発してはどうかということがあります。それから施設の問題では、いろいろなミュージアムとか美術館、その他文化施設、川崎市にはありますけれども、市民がもう少し参画して市民の主体で企業でもない、行政でもない、市民主体の運営方法というのはあってもいいのではないかと。それが本当に市民に使いやすい文化施設としてなっていくのではないかとということです。もしかしたらどうも川崎は身近な文化財というのを大事にしていけないのではないかと意見が出ました。何も文化財というのは国のレベルや広い世界レベルばかりではなくて、ここに住んでいる川崎の我々市民が大事にしていく、市民の間で長い時間の堆積の中で残

ってきたものを大事にする、身近な文化財を大事にしていこうという話でした。

それからスポーツについては、これもさっきの文化施設と同じで、運営の仕方です。その問題です。民間でもない、行政でもない、市民主体の運営というのをやっていったらどうだと。フロンターレは文句なしに応援しましょうということもあります。それからちょっと前後しますけれども、多文化レストラン、世界食文化財の始まる場所をつくりたいと。ちょっと話飛びますが、動く居酒屋とか、具体的な提案もありますので、食と味です。スポーツいいまして多摩川、これ多摩川を活かしたまちづくりと言い過ぎると、多摩川でない地域の人是非常に疎外された感じを起こすので、余りその場合鶴見川水系もありますので、それからさまざまな小さな平瀬川とか、まちもありますので、やはり呼称というか言い方にもう少し神経を使いましょうと。多摩川については渡し場の復権とか、屋形船を復活したらどうかと、そういう話もありました。

それから最後に観光です。川崎は海があっても市民が自由に海に行けないという、この非常に矛盾した関係にあるわけです。産業育成とかいろいろあったのですが。海をつくろうという。川崎で海をつくっていったらどうかと。それからもう一つ、今コミュニティバスの計画がいろいろ進んでいます。実験的にもやっていますが、コミュニティバスは川崎住民の対象としたものですが、それと観光バスとしての機能を合体させて、外部からの人もコミュニティバスを利用しながら市内観光ができるという、そういう機能の複合化の中でコミュニティバスをもう一回とらえ直して考え直したらどうかというような話です。

最後に、「冬のソナタ」というのが今非常に大人気になってフィーバーしていますけれども、川崎版「冬のソナタ」は、この際アイデアを公募して脚本も公募して、川崎のコンセプトを入れ込んで何か一つ大きな全体的なものをイメージアップとして売り出したらどうかという壮大な提案でございました。どうも失礼しました。

#### 市民委員

この音楽のまちづくりというのは、実は余り提案がありませんで、なかなかこれに対する的確なアイデアというのは出てこないのですけれども、一つはやはり音楽のまちも芸術も、なかなか蓄積がないと花開かないわけです。入れ物をつくったからって音楽のまちになるわけではないわけですから、もっと小中学生、そういう人たちを取り込んだ活動が必要だということで、市民から方がいろいろとありますよね。合唱団とかそれからオーケストラとか、そのほか韓国のそういう音楽のこととか、それから向こうの沖縄の音楽チームだ

とか、いろいろあります。そういう人たちは余り小学校、中学校とは具体的に交流がないのです。例えば学芸会にそういう人たちが出るとか、あるいは音楽の時間、あるいは美術の時間にそういう人たちが出て、具体的に1対1でもって小学生、中学生にパースを教えるとか、そうするとやはりベースがちゃんとそういうものはできてきて、初めて音楽とかそれから芸術というのは花開くわけでして、そういう交流をもっとやるべきだというふうに。ここにも同じようなことがあります。

それから文化と芸術なのですが、目に見えない文化の活用、それから発想ということなのですけれども、これは何かというと、川崎に住んでいらっしゃる外国人がたくさんいらっしゃいますけれども、その方々の母なる文化、それを活用してそして活かして多様な文化、それから音楽、そういうふうな国際芸術都市というふうな形に、これが発展できた方がいいのではないかというふうなアイデアです。先ほどもありましたけれども、そういうふうにかなり同じようなことだろうと思います。

それから活動、こういう音楽とか芸術とか、スポーツとか、この活動をするために、北の方は活動する場所がないのです。会場の取り合いになっています。したがって小中学校、1学年1クラスしかないようなそういう小さな学校がたくさんあります。それを統合してしまって、そして空いた教室、空いたグラウンド、空いた体育館、そういうものを積極的に活用して、そこで市民の各クラブが練習をしたり、いろいろなことをやっていくというようなことをすれば、それが大きくなってくると市民参加大会とか、市民音楽会とか、何かそういうものになってくるということです。

それから全体的なのですけれども、今ある施設、これを活性化するためには美術館は美術館だけだと、それから音楽館は音楽館だけだと、ミュージアム川崎は音楽しかやらないというようなことではなくて、例えば美術館でコンサートをやるとか、それから民家園でコンサートをやったり、歌舞伎の舞台もあるから歌舞伎もやったり踊りもやったり、そういうことができるわけです。したがって一つの固定した概念ではなくて、そういうふうに複合的に活用することも非常に重要ではないかと。それからスポーツの中では、リハビリ型のスポーツ、これをもっと重点的に展開していくべきだという考え方です。

それから多摩川を活かしたまちづくり、この中ではまずホームレスが多摩川に非常に多い。この対策を何とかしないと、多摩川を活かしていくということにはならない。これがベースではないかということです。そのほか具体的な考え方があります。中には多摩川の浄化、もっと昔泳げたような多摩川、簡単に言うと泳げる多摩川にしようと、そういう提

案もあります。それから観光、この中では脱観光思想、観光、観光といっているけれども、観光という考え方を今まであるような考え方から脱却しようという考え方です。したがって新しい観光か何かをするのだと思うのですけれども、今までの観光のイメージ、日本の観光のイメージを変えようという考え方です。

大体そんなところでした。以上です。

座長

ありがとうございました。補足したい方とか。もう時間オーバーしているから……。では有北さん、どうぞ。

市民委員

音楽、文化、芸術、スポーツのところで、保育つきの企画の推進というのをお願いというか、考えたいと思います。

座長

ありがとうございました。いろいろな意見が出て、かなりばらばら広範囲な分野での意見が出ているのですが、後半1個ないし2個ぐらいただと、あと50分ぐらいの時間しかないので、どこかテーマを絞って、もう少し掘り下げた議論をというふうに考えています。

市民委員

環境に対してローインパクトな生活をするのと、それからこれから高齢の方たちがふえてくる。子供たちがなかなか育ちにくいという福祉・環境の視点でいくと、これまでのようなものづくり文化、産業創出、観光を引き寄せて、いわゆる市民税を稼ぐための税源を確保するということとは相当距離があって、両立するように今回これを読むと書いてあるのですが、僕は両立しなくなっているのではないかなという、基本的な問題を出したい。だから共生社会という概念を大事にしたいなという提起です。

座長

恐らく市というのはもう130万人規模のところ、さらに多くの企業市民が来るところですので、パッとそう切りかわるということはないとは思いますが、私が提案しよう

と思っていた領域というのは、今まで私たちの議論の中で産業に係る部分というのがもう少しあってもよかったのかなと。きょうの中でどちらのグループでもコミュニティビジネス、それからコミュニティビジネスにかかわってはこれから多くの退職される方、ある意味でのこれからのリソースという方がいらっしゃるということなので、産業創出になるのか、そのコミュニティビジネスそのものなのかわかりませんが、職業の創出のあたりで、いろいろな考え方を入れながら提案していってもらいたのかなというふうに感じたのですが、私の提案よりもほかにご提案があれば、それでいこうと思うのですが、基本的には少し産業に目を向けて、産業のあり方、ものづくりのあり方を含めて、産業のあり方について議論していくということにしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 市民委員

たまたま策定委員会の資料の5ページですか、それをさっきからずっと見ているのですが、新産業創造戦略の骨格。このとおりだと思うのですが、ただイメージとして二兎を追っているような気がしてしょうがないのです。ある程度お金になるビジネスをつくることというのは川崎でも団塊の世代を含めて高齢者、ふえてきますから、例えばこれで見ていると何か次元が違うものが全部ここに入ってしまったかなという気がします。もう少しきちんとしたコンテンツをつくっていかないと、総花的に今までと同じようにいろいろなところに少しずつ予算をばらまいて終わってしまうのかな、そんな気がします。どこにパワーポイントを置くのかというあたりが大事なような気がします。

#### 座長

ありがとうございました。どなたか。

#### 副座長

きょう皆さんが出していただいたこちらから見ていると、結局4番の「環境を守り自然と調和したまちづくり」というのは、環境をテーマにしている。5の「活力にあふれ躍動するまちづくり」というのは産業と交通をテーマにしている。6の「地域の魅力が輝く」というのは文化をテーマにしている。しかしこうやって発表を聞いていて思ったのは、環境も新産業創出にかかわるし、文化も川崎らしさを言うときにはやはり新産業創出なり商

店街を活かした云々の新しい産業の考え方とリンクさせずには、この文化を活性化させることもできないということで、座長が提案したとおり川崎らしさを一番うたっていくのはこの5番にある「産業」というのに対して、ここに暮らしている私たちはどのようにこれをとらえるかということが非常に大事になってくると思います。それで、新産業創造戦略の骨格のところをごらんになっておっしゃっただけけれども、私もこれを見るに、やはり先端的な新産業分野をこういうふうに見込んで生産額が期待できると言っているけれども、こういうのって右肩上がりの、ちょっと経済成長が完璧にとまっている時代にはふさわしくなくて、やはり暮らしている者たちが考える産業政策というのがないと、これ絵にかいたもちになるなというふうに思います。

では新しく私が一番魅力的に思える産業って何かなというと、やはり地域サービスの産業、あるいはこれは福祉にも結びつくのかもしれませんが、暮らしていく上で暮らしやすさ、地域が活性化する産業というのは何かということ、ぜひ考えていきたいと思っています。そのときに私たちのAグループでは、若者たちの産業への新しい働き方、新しい職業への考え方、あるいは新しい産業への取っかかりのつけ方というのがなかなか道がついていない。それは今まで私たちが考えていたような大きく売って大量に消費しようという考え方ではなくて、小さくつくって個性を出そうという考え方に基づいているものだから、大量なこうした生産額が期待できるような産業にはなっていない。地域の中で何かを利用して、人と重なり合ったりつながり合ったりすることが一番のエネルギーになるという産業の考え方をしないとだめなのかなというふうに思います。

観点は、やはり暮らしている者たちのエネルギーが、産業としてどのように結びついていくのかということをもっと考えていかないといけないのかなというふうに思います。つまりは何かをつくり出して、すぐにそれが利益に結びつく、あるいはそれがお金になるという考え方ではなくて、むしろ現実のお金には結びつかないけれども、こんな暮らしやすさがあるよということがアピールできるような川崎のまちでありたいなというふうに、そういう川崎の産業でありたいなというふうに私は発表を見て思いました。

座長

では市民委員。

副座長



Bグループの臨海部再生のところで書いたのですが、ちょっと発表してもらえなかった  
ので。臨海部が川崎の工業拠点なわけですけれども、今三菱自動車が問題になっています  
けれども、中原区の大倉町というのは三菱自動車だけの工場地帯の地名なのです。あれだ  
けの大きい地域に三菱自動車がいるわけです。企業としての社会的責任はとらなくては  
いけないと思うのですが、そこに働いている従業員がどうなるのかなという、私なん  
かすごく心配なのです。これからリストラだ何だと言われるわけですから、企業としての  
社会的責任はとるとしても、その従業員の人たちはどうなるのかなというのを考えると、  
寒気がするというか、あれだけの広い敷地ですからどうなるのかなというのをすごく思  
うのです。

いすゞが今、羽田空港で拠点として移動になったという話がありますけれども、いすゞ  
は何をやったかという、従業員を北海道等の遠いところに転勤しなさいという命令を出  
して、お金を出さないでやめさせるようにしていったわけです。東芝も同じことをやった  
わけです。東芝も新幹線で通勤定期を出すから通えと行って、行かない人がいっぱい出  
るわけでしょう。そうすると自分でやめざるを得ないように持っていったという、そこ  
にそういうホームレスだの何だのの問題が根本的にあるのではないかなと、すごく思  
うのです。

では、そんなときに自治体として何をやるのかなと。新産業創出のこんなプランを見せ  
られたって、その人たちにとったら働く場所を確保してくださいよという、元気のあるま  
ちにしてくださいよという声が聞こえてきませんか。私はそっちの方がすごく気になるの  
です。自治体としての役割はそこになればどこに視点を当てるのですか。会社に視点を  
当てるのですか、従業員に視点を当てるのですかと言いたいぐらいです。やはり今臨海部  
で働いている人たちというのは、勤労者の働く場所を持続させてあげなくてはだめなの  
です。人間らしい労働にさせなくてははいけません。中小企業は、大田区は独自性を持った  
中小企業です。でも川崎市の中小企業というのは、大企業の下請なのです。大企業がつぶ  
れたら全部総ぐるみつぶれてしまうのです。そういうときに、やはり企業として産業の内  
容が4番の環境というのはあると思いますけれども、平和と環境に合った物をつくとか、  
これからは違うものをつくっていくのではないかなと思うのです。

今アジアの起業家を呼ぶと言っていますけれども、うちなんかもエンジニアですけれど  
も、もう実は開発だめですよ。アメリカは全部開発を保護しているのです。日本はどんど  
んどんどん技術提供を無作為にやっちゃっているのです。保護されていないのですから、

何にも残らないですよ。そうしたら何で生きていくのですか。そのところが私経営者ではないですけども、すごく甘いなと、怖いと思うのです。住民による住民のための住民の政策を立てないと、皆さん自分の問題として考えないと、次が危ないのではないかなと。

策定委員会でもこの間申し上げました。川信の柳川さんが企業の社会的責任ですねと言ってくれましたけれども、そのときに税金を納めている自治体としての住民を守ってくれるために皆さん納めているのではないですか。もう三菱の自動車の問題は、それは安全性がなかったのですから車が悪いですよ。でもそこに働いた従業員の人たちの生活はどうなりますか。大倉町全部つぶれてしまうのですか、大倉町という住所なくなるのですかと言いたいぐらいです。

座長

ありがとうございました。

市民委員

私メーカー出身で40年生活した人間で、何かちょっとピントがずれているなと思ったのですけれども、まず今のこの川崎の委員でそういうことを議論してどの程度フィードバックされるかなと。企業というのは今もう世界的にどう変わっているかで見ているわけです。うち出た会社なんか、もう今ほとんど日本でつくっていないわけです。人件費が安い東南アジア、前はアメリカも行っていましたが、もう東南アジア、工場は余りなくて、ほとんど実際にものづくりの人は外国へ行ってやっている。逆輸入されている。そういう状況がまずあると。これからまた少し変わっていくかもしれない。

言うといろいろなことがあるので、これはとても日本だけでは考えられない、世界を考えなければいけない。ましてや政令指定都市といえども、一地方だけの問題、例えば三菱の話だって別にでは川崎はどうするのですかと、何も手はないと思うのです。あるとすれば何かあるのかな、ちょっとわかりませんが、日本政府は当然あると思いますが。今この産業ということにおいて川崎市がどう携わっていくかということ、具体的に言えばマイコンシティはなかなか動かなかったと、あれ何なのと、そういう話だと非常に我々の中に入ってくるのです。ぜひ話をそう切りかえないと、日本の産業がどうなっていくということを考えるのなら、絶対に世界を考えなければだめです。川崎市はそれを世界がそうでも、何

もありませんから、ちょっと視点を変えた方がいいのではないかと思います。

市民委員

もうその産業に入っているのですか。入っているわけね。

企画調整課主幹

ちょっとだけ。骨格というのがありますね。これは川崎市の骨格ではありませんで、これは国の骨格で、川崎市はこれから何を選ぼうかという話です。それからもう一つヒントですけれども、臨海部については一番最盛期は19万人の労働者がいたのです。今3分の1の6万人。先ほど言った三菱自動車どころの騒ぎではないのだけれども、それがどこに消えてしまう。世界のグローバル化と、それから生産のいろいろなアジアへの拠点が行ってしまったということで、空き地が残っていて、これを今からまだどんどん減らしてしまうのか、どうするのかというのが一つ分かれ目に来ていると。

それはまちづくりで言えば、そのおかげで川崎区のほとんどの商店街がシャッター通りになってしまった。これはもう事実です。いろいろなお寿司屋さんもみんな。そうすると川崎区の人口もまちとしてはかなり10万人規模で減っているのです。一つの市がなくなったぐらいのことがこの間に起きてしまった。ではそういうのを一体どういうふうに考えたらよろしいのかというのが1点と、それからもう1点は、川崎市の昼間人口、昼間いる人というのは指定都市の中で最低なのです。80何%。ということは10何%ですから、物すごい数が逆にどこかへ働きに行っている。それでそれでもいいという地域もあるわけです。私の住んでいる麻生区なんてほとんど、もう電車が便利だからみんな東京へ行ってしまっ、住んでいるのはいいのだと、緑があって住みやすければいい、福祉があればいい。産業なんか私は東京へ行くからいいという人も多いし、逆に南北差の川崎の方はそうはいかないというような、いろいろな問題がありますので、ですからその辺が今後のまちづくりの中で大きく転換してくるといふ。

ですからその両方を目指すのか、片方で100%の就労ができるように若者も含めてそういう就職の機会というのですか、いろいろなをつくろうかという話と、それからもう一つは川崎の動きとしては今大きく転換がありまして、研究者が日本一多く集まりつつある。これはもう見ていただくとわかるのですが、いろいろな工場がビルになって、そこが研究所になっている。ではこれと地元とどうつながるのかというのは非常に難しい話なの

ですけれども、そういういろいろ産業についてもいろいろなことが確かにありますし、それから今市が一つ提案していこうとしているのは、環境産業、福祉産業については、これは持続型の産業になるのではないか。それから人間が生きていく中で環境にしても福祉にしても最終的な重要になっていく。この辺を伸ばす、これが今後伸びていく産業であろうというので、かなり川崎市は今後力を入れようというところがありますので、その辺とそれから確かに福祉産業でいけば、コミュニティビジネス産業とどう連携していくのかということ再度つくっていく。それからそこから発信していけば、これはもうアジアも含めてこれから福祉医療機器が猛烈にふえてくると思いますので、環境もそうですけれども、そういうような視点も少し置いているということをやっとヒントということでお話をしておきます。

#### 市民委員

今おっしゃったのは、多分最初4の資料を見ると、これが川崎区のあれなのかなと思うのですけれども、私は本当に身近なところからしか考えられない人間なので言いますけれども、この福祉産業というところに福祉サービスというのを絶対入れてほしいと思うのです。福祉産業というところすぐ福祉にかかわるものづくりになってしまうという考え方がどうも理解できない。これからは若者の働き方とかいうふうになった場合、ものづくりではなくて、福祉サービスの分野で働けるようにしていかなないと広がらないのではないかと強くずっと思っているのです。

それで、それに伴ってNPOへの支援というのをもう少し真剣に考えていいのではないかなと、今私の方でもいろいろな事業をしていますけれども、結局人材育成とか福祉サービスにおいては、人と人とのかわりというのが一番大事な部分なのですが、そこにお金が出ないのです。では一体何にお金が出るというと、何かそのときそのときの単発的なイベント事業にしかお金が出ないという仕組みがあって、そうではなくて基盤となる人材育成とか、場の維持とか、そういうものに対しての補助がなければ、新しい福祉サービスというのは育っていかないというところを、もうちょっと認識してほしいなと思うのです。だから大きなグローバルな産業というのも一つの考え方だと思うのですけれども、本当に川崎市内の人口をこれ以上減らしたくないとか、この地域内で例えば暮らして働くことも生活することもすべて地域内で行えるような方向に持っていこうとするのであれば、そういう人と人との関係に対して、うまくお金が回るようなサービスということに、もっと重

点を置いた産業ということを考えていくべきではないかなと思います。

以上です。

#### 市民委員

今おっしゃったことは、ものの一つの部分を両方からとらえられているのです。補助とか助成とかとありましたよね。これはお金がないとできないわけですよね。だから今川崎で我々が議論をしているのは、そういうサービスということなのですが、サービスに対するお金をどうやって集めるかということが、非常に大きなテーマであるはずなのです。したがってサービスというのはお金を生むのだということもあるのですが、サービスというのは実はお金を食うのだという側面が非常に強いわけですね。だからどちらかというところ今ここで議論しているのは、お金をどういうふうにしてそういうサービスを向上するためのお金をどういうふうにして生み出すかという議論ではないかと思うのです。

そうしますと、産業ということになりますと、物をつくるのも産業だし、それからサービスを生み出すのも産業なのですが、サービスというのは今の福祉サービスみたいなことだけではなくて、もっと大きくとらえると、川崎の立地というのは物をつくるにも非常にいいかもしれませんけれども、流通の拠点として非常に私はこれから大きなそういう分野があると思うのです。羽田がそういうふうな形で国際化するというふうなこともあるのですが、これは国の政策の中の一つだと思うのですが、それにどうかわかっていくかという問題があるのですが、やはり川崎の立地というのは、これは私の持論なのですが、東京というような大消費地があるわけですね。横浜を見ないでおまへ東京ばかり見ているのかということなのですが、それはなぜかというところ東京というのは世界稀有な大都市で大消費地です。そこにいかに物を供給するかというのは、今の問題だけではなくて、これからずっと長い間の問題です。

あるいはそこで物を使ったものを、どこかで何かこれを廃棄しなくてはならないというふうなことも含めると、東京の近くに川崎があるということは、例えば東南アジアと東京との間の物流の拠点になるわけですね。幸いにして、広大な土地が臨海部にあるわけですね。これどうするかということで一生懸命やっていくわけなのですが、これを流通基地というふうな位置づけでもってやれば、大変な産業になってくると思います。東南アジアとのそういうふうな橋渡しでもあるし、羽田も国際化すると貨物も取り扱うようになると思うのです。羽田に入った貨物は、ではどこに置くのだというところ川崎しか恐らくないはず

なのです。したがって、そういう意味からも空港の立地、それから船の立地も、これはもう東京を控えて最高の立地にあると思うわけですので、ぜひそういう東京を意識した中継地、そういうトランスポーターションの役割というのは、川崎はもっともっと目覚めて活性化していったらいいのではないかと私は思います。

座長

ありがとうございました。他にご意見いただけないでしょうか。

市民委員

僕は魅力的なまちづくりのところでも申し上げて、発表のときは言いませんでしたけれども、都市計画マスタープラン構想って区民提案を今いろいろ出ているのですけれども、地域の魅力づくりというのも新しい産業の素材として活用すべきだと思うのです。したがって、その都市計画マスタープランの区民提案の要素をきちんと取り込んでいくという位置づけも、「地域の魅力が輝く自治と風格のまちづくり」という中に、ここだけではないのですけれども、都市マスの位置づけというのをきちんとしていきたいというふうに思います。

それから観光というのも、最近もう観光どころではないというような話があるのですが、観光自体が様変わりしていて、かつてのように物見遊山的な団体で移動したりするというような観光はもう入りませんよ。小グループによって何かそのまちの魅力とか、文化とか歴史とか、長い時間かかってつくってきたまちのにぎわいとか、むしろ商店街がにぎわっていたらそこへ行ってみようという、そういう学習的な要素の強い少人数の移動とか旅行とか観光というものが、それはもう観光と言えるかどうか、従来のものと違うのですけれども、そういったものもありますので、川崎というのは従来の観光型ではなくて、やはり地域の魅力をきちんと整理して、歴史的にも位置づけながら、僕は新しい素材として発信していくというのも一つの川崎の新しい産業として僕は考えられる。

それから先ほどの話にあった持続可能なまちづくりというのは、都市マスでもさんざん言われておりますけれども、ここに全部まちづくりが入っていますけれども、したがって持続可能なということの中では、先ほど環境と福祉ということをご指摘になったのですが、それに加えて広い意味での生涯学習といいますが、いろいろな人がいろいろな分野で自分の能力やら職業経験やらを持っているのを、団塊の世代が全国で年間1,000万人ぐら

いづつ、昭和22年生まれから22、3、4ぐらいが大挙して戻ってくるわけですから、そういう人たちのスキルやら人生経験やら、人としての生きてきた物語やらを、いかに学校教育や生涯学習や社会教育と位置づけながら、まちの活性化につなげていくか、つまりその人たちが教えたり教えられたりするネットワークをつくりながら、まちをつくっていく、人の交流もふやしていく。

その中で、サービスの提供と共助の関係でお金が生まれるとか、お金といってもあれですけれども、産業と言えないかもしれませんが、それはコミュニティビジネスといった感じで、あるまちづくりのニーズを必要としている人とそのニーズに対応できる人というのは、実にさまざまな形であると思うので、それをいかにネットワークを構築していった、そういう提供と受ける側との転換システムをどうやってまちの中につくり出していくかという、そういう発想も、これはもう高齢化社会がどんどん一方で進みます。少子化も進む中で、そういった学習機能の交換というのですか、子供の教育も含めて、それから高齢者の何か勉強したい、習いたい、そういった提供する人と受ける人、そういった仕組みもあわせて、僕は新しいこれからの少子高齢化時代の産業の一つ、産業というのはオーバーかもしれないけれども、コミュニティビジネスとしてまちの人々のニーズを満たす、ニーズにこたえられる、そこで一つのサービスが成立するのではないかというふうな視点も必要かなと思います。

#### 副座長

マイコンシティの二の舞をしてほしくないというの、さっきの世界経済を見てというのは、それがそうなのですけれども、6月15日の朝日新聞に羽田空港施設神奈川口構想で、阿部市長は国の来年度予算に何らかの形で計上するよう求めたが、明確な回答はなかったというのです。だから国の政策というのをやるときには、必ず市に負担を言ってくるわけです。基盤整備だけやってあと来ませんでしたではまた困るわけです。だからマイコンシティのようなあんな自然破壊をして企業が来なかったという、あれだけの環境を壊してしまっても、企業が来ないというのを先に基盤整備ありきというのはやめてほしいのです。

絶対に来るという保障があって、それから川崎も自主的プランを持って、ちゃんと確約をとってからやってくだされればいいのですけれども、先に道路だけつくりまします。でも来ませんでしたでは何にもならないのです。埋立地がそのいい例なのです。横浜は企業を誘致するときにお金もらって誘致したのです。川崎はただで誘致してしまったのです。必ず川

崎の姿勢ってどこかに抜け道があるのです。だからそのところを自主的プランで市民の税金でやるのではなくて、きちんと国策に引きずられないで、保障を持ってからやってもらいたいのです。アクアラインがいい例でしょう。全然通らない。あれどうするのですか。圏央道だってまだあれわからないですよ。通るのですかと。そういうところをきちんと保障されてから道路をつくるなり整備するのなら、羽田空港整備するのならいいのですけれども、そういうところを私は危惧していますということを言いたかったのです。

座長

ほかに。はい。

副座長

「環境産業」という言葉がありますけれども、私環境産業とよくイメージがつかなくて、廃棄物をどのように処理するかとか、あるいは工場が全くごみを出さずにちゃんと経営できるとか、そういうレベルではなくて、この地球上の環境を破壊しない、持続可能というのは、人間が生き続けられるような状態に持っていきたいということなのならば、どのような形でいってもやはり人間がという、人間が生き続けられるような産業でなければならぬということになるわけで、そういう意味で川崎が呼び込む川崎独自の環境産業というのは、ぜひ人間性というか、人間が生き続けられるという、そういうコンセプトをしっかり守っていける、空気を汚さないのももちろんだけれども、水を浄化するにしても、そうした私たちのまちにはこういう企業があつてよかったねと、それはこういう環境にすばらしい技術を、しかも世界に冠たる技術を持っていて、こういうコンセプトでやっているのだと誇れるような、そうした環境産業でありたいなというふうに思います。ここを読む限りただ循環型社会とか、環境関連産業ネットワークだとか言われているけれども、人間の視点というか、生き続けられる、暮らしていけるということがはっきりうたわれるような、そうした環境産業を川崎としては誘致したいのだということが、はっきりうたわれるようにしたいというふうに私は思いますけれども。

市民委員

悪乗りするわけではないですが、さっきだれかがあそこで農業も産業と一つ考えたらと。それ皆さん、ぜひちょっとだけでも意見を聞きたいのですが、都市農業なのですが、それ



が産業と成り立つのかどうかというのは、皆さん。我々都市マスで麻生区にいと徹底的に議論してこういう方向かなぐらいには考えている、まだもちろんいい案も浮かんでいないし、今大変なのやっていますけれども、ぜひ皆さん本当に日本の農業まではいかなくてもいいから、都市農業ぐらいの範囲でちょっとどうなるか、ぜひ意見を。もし時間があつたらお聞きしたいのです。

市民委員

川崎の統計によりますと、これは平成12年2月1日の統計ですけれども、販売を目的とした専業農家というのは102戸しかないのです。一番多いのが宮前区で37戸、麻生区が26戸、それから多摩区が17戸、中原が13戸、高津が9戸なのです。これは販売を目的としているところの専業農家なのです。ではこれしかないわけですよ。あとみんな兼業なのです。

市民委員

それで全部自活はできていない。

市民委員

ええ。だから恐らく自活はできていないから、これは本当は専業だと言ってもちょっとわからないのですけれども、恐らく何かをしないとできないのです。私は会津の出身なのですけれども、では向こうの方はどうなっているのというと、土地は昔は1反ぐらいの大きさでして、それが大体3反ぐらいになって、それが5反ぐらいになって、今は1町歩ぐらいじゃないと田としては成り立たなくなってきた。しかも田植えなんかやっている時代ではなくなってきているから、うちの方は直まきといって、上から種をまいて、そして育てるなんていう実験もやっているわけです。だからそういうふうなことを考えると、ここ農業といっても田ではないのです。要するに畑の農業なのです。畑の農業というのは基本的にはそれだけで食っていけるほどの営農をするためには、例えば基本的に小麦をつくらとか、大量につくらないととても食っていけない、そういう時代だと。したがってこの辺のところは本当に専業農家とおっしゃっても、恐らくじいさんとばあさんがやっている専業農家なのです。ほとんどがそうなのです。だから私はそういう点では非常に悲観的です。

## 市民委員

私は今の都市農業の話で、中原区でもどこでも見渡す限り農家やっている方って大金持ちですよ。私今農業で食べていけないと言ったけれども、中原なんかでも私の知っている人で農家やっている人というのはもう本当すごい豪邸で、かなりの土地を持っていて、ほとんど周りをマンションにしている、自分たちの住居の一部をおじいさん、おばあさんが道楽かなんか知らないけれども、自分たちの前にポストをカチャンと入れるのを置いて、卵だとかキュウリだとか置いて、私なんか新鮮だから買いに行きますけれども、そういうところばかりなのです。それっているところへ行っても、どこもだと思ふのです。

だから私は、別に都市農業をやらせるためにどうかということは余り考えたことがないです。逆に農家の人は土地をたくさん持っていて、先祖代々の土地を身の回りのマンションに売って、ご自分たちは優雅に土いじりをなさっていて、自給自足をしてさらに余ればお売りになってという、例えばパンジーをつくっている人なんかでも、周りは全部ご自分の土地で同じように何とかマンション、何とかマンションという一族郎党の方が多くてというふうなので見ているので、私はどういうわけか漁師の娘かもしれないけれども、そういう農業の人に対してどうしても今この川崎で都市農業を繁栄させていかなければいけないというようなことは考えたこともないし、むしろすごい羨望の的というか、はっきり言ってサラリーマンの人よりもずっといいのではないかと。

## 市民委員

あれ提案したの僕なのですが、お話しさせていただいていいですか。僕は生きがいとしての都市農業のあり方を考えますと。障害があるハンディキャップの方たちが、今の企業の下請の仕事、なかなか難しくなったはずで、やはり土に親しむ、いかに重篤な障害を持った方たちでも自己実現できるというような広い空間。それともう一つはリタイアメントした方たちが、やはり最後まで僕生きがいとしての仕事を持つべきだというふうに考えますので、トマトでもつくれる、そういう共同入会農地的な、今の市民農地を超えたような、何かそういう意味での都市農業のあり方、それをあそこで提案したのです。

## 市民委員

何で終わったわけですか。

市民委員

これは障害のある方たちは、障害基礎年金で基本的な部分はもうできますし。

市民委員

保障されているわけね。生き生きというのはお金があって趣味で農業をやるのはもう結構なことはわかっているのです。でもそれでしか生活できない人もいっぱいいるわけですよ。そういう人たちはどうするのですか。

市民委員

いや、そういう話ではなくて、それを提案したのはそういう意味ですよということです。

市民委員

ああそうですか。

座長

前回、全員が発言するようにというのがありましたので、松崎さんが一言言ってから、準備してください。

副座長

道の駅とか今サービスエリアでその産地直売やっているではないですか。結構あれすごい地元産のキュウリの曲がったのとか、マーケットには乗らないものを。結構買い物に来ている。だから道の駅とかサービスエリア、道路がある……そういうところで応援するという手もあるかなと。それだけ一言です。

座長

農業にかかわらず、もとは新産業創出、広域ビジネスについて私たちがどんなことを考えるかということと、少し幅広く意見を出してくださいということでした。ではどうぞ。

市民委員

二つについて、一つずつコメントをしたいと思います。農業の問題で私はちょっと別な視点で考えています。都市農業が今生きがいか、それでご飯を食べていくためにとかいろいろなおことをおっしゃっていますが大事な問題だと思います。実は日本の農業の年間の一農家の総所得の日データは忘れていますが、農業で食べていけない農家がほとんど9割以上だと思います。また日本のカロリーベース、自給率は物すごく低いです。

もし戦争や問題があったとき、日本人は餓えて死ぬということは確かなことです。アメリカよりずっと低いのです。しかしほかの先進国、アメリカを頭にして北ヨーロッパの自給率は高いのです。その意味では日本は国民の安全という意味では非常に最低の農産産業、政策をとっていると私は思っています。生きがいも大事ですが、農業の人々が生きるためのベースとして育成しないといけないということを、確かな観点に置かないといけないというのが私の考えです。

先ほど企業とか新産業の話がありましたけれども、私それを聞きながらつくづく思ったことですが、企業で生き残るといのは競争に勝ち抜かなければならないことなので大変なことだと思います。ドイツの例を一つ言いますと、ドイツの企業の中で結局生き残った企業はどのような企業なのかというと、たった一つあります。まずは環境を大事にしたことと、人間を大事にしたことです。この企業は2代、3代、4代、長く歴史を持って今まで生き残っているのです。こんな世界の中で企業が生き残るためには物をよくつくることも大事なのですが、物というのはやはり人間を豊かにするためにあること、お金だけではないという発想を持つ企業が生き残るのです。ですからどんな政策をとるのであろうが、それは基本的にあると思います。

一例として韓国のサムスンという大きな企業がありますが、この企業が一番にした政策として職員たちに朝食を与えたのです。みんな夜遅くまで働いて朝早く来て、朝ご飯食べないので。これでは仕事できないと思って、まずは朝食を与えるという政策で人間を大事にするというイメージをつくりました。ベースをつくって働かせたというのがサムスンという企業が今までも世界の企業として生き残っていることかも知れませんが。この企業は人間を大事にしたわけです。人間と環境を大事にしない企業は生き残らないのではないかと思います。それは私たち市民と企業が一緒にやる問題ではないかというふうにちょっと思いました。

市民委員

今のちょっとパクさんが言ったことに対する反論ではないけれども、サムスンさんの話は私もよく知っているのですけれども、日本だって昔はそれはそうでしたよ。だって入ったらそれはもう給食だってあるし、しかも住むところだってあるし、企業城下町というのは墓場まであるぐらいのところですから。そうやって企業というのはやってきたのです。だからその段階は日本の場合はもう過ぎてしまったのです。それが一つ。

それからあと……まあやめよう。

#### 市民委員

川崎がどうやって稼ぐかという話は難しく、データも持っていないので控えさせていただきますけれども、何か私はやはり自分でどうかかわれるかというところから考えて持って行って、この件は自分の立場でいろいろ考えていますけれども、ここに出した中で例えば自然環境を保全したり、歴史文化を何とか保全したりというようなこと、あるいは農地でもそうだと思うのですけれども、黒川の農業をしている農村景観を保全していくような話を、これはちょっとまだそこまでやっていないのでわからないのですけれども、うまく組み立てたら東京だとか横浜あたりから人を呼べるような日帰り観光的な、「観光」という言葉の意味が大分違いますけれども、そういう組み立てができるのではないだろうかと思って検討しているところです。

それは個人ベースの話でも今やっているのですが、それはただ川崎がどう稼ぐかというような、そういう大それたところではなくて、そこまでとても行かないだろうと思います。例えばNPOでやるとしても、そのNPO自体もスタッフの給与がどれだけ払えるかどうかという、今はそんなレベルでしか考えられないので、とても産業と言えるレベルではないと思うのですけれども、例えば今生田緑地でこの間からホテルが出始めて、すごい人が集まって土日なんかもうホテルよりもはるかに多い人がぞろぞろといるのです。それはある雑誌に出てしまったからなのですけれども、それで横浜から大勢来る。だけどそれもあるいは切って有料にしてもできるかもしれないし、いろいろな要素があると思うのです。自然の観察会でもいいし、いろいろなものがあるので、そういうものを一つではなくていろいろあるのをうまく組み合わせて行って、地域として組み立てができれば、何かそういうとても川崎の財政に貢献はできないかもしれないのですけれども、産業に近いものにできるのかなと思っていますけれども。ちょっとまだ具体的には。すみません。

座長

ありがとうございました。余り大きな課題だと思わずに、自分の感じることで構いませんので、残っている方で。

市民委員

新産業創出のところで、職の場を与えるのに若者とか高齢者とかという話がありましたけれども、私もう一つジャンルがあると思うのです。それは子育てを終えて再就職を考えている女性たちという分野。これ私が今一緒に活動している人たちがみんなそういう人で、とにかく仕事がしたいという若い女性、30代から40代の女性がとても多いのです。そういうことも今ちょっと地道に始めかけているのですけれども、この世代を育てていくということを考えていきたいなというふうに思っています。

市民委員

私は川崎活性化に、産業のどうとかというのも一つあれだと思うのですけれども、観光が今のままで川崎が何も無いというところを観光の目玉にして、何か上から見ると何も無いというようなことも一つの目玉になっているのではないかなと。余り手を加えないで。そのようなことで人を呼び込むような方策を一つ考えれば、人が海辺に集まるのではないかと思います。人というのは海が大好きで、水が大好きなのです。水があるとホテルに集まるように、人も集まってくると思いますので、そのようなことも一つの方法だと思います。

それから意見としまして、非常に「緑化」ということが言われております。川崎は緑の多いまちにしようというふうなことが皆さんの意見で非常にたくさんありました。緑化をする人、今する人というのは都市計画をしている工学部の先生とか、農学部の先生とか、いろいろといらっしゃるのですが、まとまって教育をしているようなところが、私の知識がないので知識不足かも知りませんが、あるのかもわかりませんが余り聞いたことがありません。

あるところって言うのはちょっとおかしいのですが、カナダのナイアガラの方に行ったときなのですが、ガーデニングの学校があって、実際小さな学校で見たのですけれども、そこを卒業すると世界じゅうから引っ張りだこというふうな学校があるのだそうです。そのように緑化が叫ばれていますので、そのようなまとめて緑化を考えるような人を育成す

るような学校のようなものを、川崎市として何とかの空き地があるようですので、そういうようなところに学校でもつくっていただいて、そして川崎はもとより緑化を進めて地球温暖化を防ぐような、日本全国にそういう人を輩出するような学校的なものを、空き地を利用してつくっていただけたらと、このように思ったりします。緑化というのはこれ非常に産業になるようです。木をつくったり、植えたり、それから種をまいたり、種をつくったり、新しい育成方法とか植物を育てるといのは大変な研究も必要ですし、頭脳も必要ですし、人材も必要ということで、緑化を一つ考えただけでもこれは大きな産業になるのではないかなと、このように思ったりしております。

以上でございます。

#### 市民委員

何かいろいろ考えていたのですけれども、まずは産業を大いに振興させるということと同じ財政の中で考えて、福祉だのそういうのにお金をやっていくというのは、両立するのは結構大変なのかなということとかいろいろ考えて、アメリカ型に小さい政府で福祉は少な目でも税金を少なくするか、あるいは北欧みたいに税金は高くても福祉を充実するかという感じで、中間だと何となく中途半端になりそうなのかなとか、いろいろその辺を思ったり、どこで折り合いをつけていくかというのが一番難しいのかなということと、あと環境を大事にするというのはすごく大切で、そうしてもらいたいなと思うのですが、逆にあそこにも出てきたのですけれども、日本のすごい問題点はリサイクルする方がお金がかかって、新しく物を買う方が安く済んでしまうので、それがすごい一番問題点なのかなと思って、さっき出てきたドイツの例でも、たしかベントツかなんかでは企業もそういう物を出したら回収しなくてははいけない。例えばペットボトルだったら出すみたいに、ブレーキのオイルまで回収するとか、そこまで徹底しているというのを聞いて、ああすごいなと思って、そういう意味でちょっとあそこのあれは出しました。

あと自分でできることをして、もうちょっと分別するような形でみんなも出して協力していくのもいいのかなということと、あと日本の食糧の自給率が低いというのがあって、急に変えるのはすごく難しいし、お金もかかるけれども、それもやはり守っていかねばいけないということと、いいこととお金がかかってしまう矛盾というのが一番すごい問題点だなと思いました。

あと全然問題点が違うかもしれませんが、何かのテレビに出ていたのですが、あ

る植物で地雷やなんかがあるところに植えると色が変わる植物とかいうのがあるらしいのです。例えば川崎はそういうすごい研究者がいるということなので、そういう研究もしてもらって、普通の野菜やなんかと一緒にどの程度距離を置いたらその植物に影響を与えるとか、そういうのはよくわからないのですが、セットでやると少しはお金もあれなのかなとか、変なことを考えました。

座長

ありがとうございました。まとめり……。短く。

市民委員

最後にちょっといいですか。短く。商店街活性というのが一つ出ているのですけれども、先ほど鈴木さんがおっしゃっていたみたいに、商店街の方たちも結構裕福な方たちがいて、もうお店をやらなくても済んでしまうような人もいるのですよ。そういうところで活性といっても、新住民が入っていけなかったり、空き店舗いっぱいあっても使えないのです。それはどうしたらいいのだろうという、何かいいアイデアを考えないと、ほうっておいたらそのままシャッター街のままで終わってしまいますよね。何かそういうことを考えてもいいのではないかなと思いますけれども。すみません。余計なことかもしれないけれども。

副座長

でもそういう人たちって生きがいがなくなっているのよね。本当に何もやることなく、事務管理だけだから、生きがいがなくなっちゃったって、PTA一緒の人たちが。

市民委員

お時間ないけど1点だけいいですか。やはり地域社会でどういうまちづくりをするのか、福祉なのか保険なのか、そういうものづくりだとかマイスターなのかというのは、個々の川崎区のもっと小さなコミュニティレベル。その結果川崎区のありようを決める。そして7区寄せたものが市のマスタープランになるべきで、上から絵をかく時代ではないのではないのですかとつくづく思います。

市民委員



そのために市民会議がある。

市民委員

もちろんそうです。

座長

かなり大きなテーマで多岐にわたっているいろいろな意見が出たのですけれども、多分共通するところは前回とも共通性があるのですけれども、市民の意見をもっと聞いてよというのが、多分一番この市民会議として出していききたいメッセージなので、やはりここでも市民の考えを産業の分野においても取り入れるような仕組みづくりというのがこれからは必要でしょうというのが、具体的には出ていないのですけれども、皆さんの意見を聞いて一番痛感したのは、これまで経済政策というのは市民の声が全く入らないでできてきた。だけど今後は経済政策というのは、これは市民の声抜きにやってはならないということが多くの声ではないかなと感じましたし、私自身も先ほど環境とか人権、そういった観点の話もありましたけれども、やはり倫理というのですか、持続できる企業であること。

企業がよく忘れることは、企業のリスクというのは実はどっちかというと私は少ないと  
思っていて、本当にリスクを負っているのは最終的にその物を手に入れる消費者だと思  
うのです。それをすっかり今の社会は忘れていて、だれがリスクをとるかということ、結果と  
して得体の知れない事業をやっている企業の物を手に入れた人が、それによって何らかの  
被害を受けるということが一番大きなことではないかなと思うのです。きょうはいろい  
ろな意見が出ましたし、きょう時間が超えておりますので、できるだけ整理して次回の最終  
回にもう一度目標を含めて、ここまでの議論を整理していきたいと思っております。

一応会議としては次回、7月3日、3時間の会議。1時半から4時半。場所はエポック  
中原だったと思います。では、ほかになれば一応……。24日は西口。集合場所。では  
事務局。

企画調整課長

J Rの川崎駅の改札を出た向かいで、緑の窓口というあれがあるのですけれども、そこ  
の前でお願いします。1時集合でお願いします。J Rの川崎駅の改札を出た向かい側ぐら  
いのところに緑の窓口がありますので、その前あたりで集合お願いします。

市民委員

すみません。3日は場所はどこなのですか。

企画調整課長

エポック中原という、武蔵中原の駅前の昔の中原会館と言っていたところです。駅のすぐ道路を渡った向かい側です。駅から直接行けますので。

市民委員

課長さん、この日は市民会議ではなくて、これのみね。すごい設定だね。

市民委員

24日は時間が延びる可能性はありますか。

企画調整課長

若干あるかもしれないですね。バスで往復しますので。一応川崎駅に5時解散というか、川崎駅で考えていますけれども。若干はちょっと可能性があるかもしれません。

市民委員

5時半ぐらいになる可能性もある。5時半とか6時とかなる可能性もありますか。

企画調整課長

1時間はないのではないかと思いますけれども。

市民委員

30分ぐらいは。

企画調整課長

は、ちょっと道路の混みぐあいとか含めて可能性は少しあるかもしれないですね。

副座長

普通の市営バスですよ。団体バス。

企画調整課長

いえ、マイクロバスです。

副座長

ああ、マイクロバスですか。

座長

では会議の方は終わりにいたします。それで会議終わった後なのですけれども、次回の会議の後に交流会を予定しております。一度事務局の方から希望日程を聞きましたが、もう一度参加の意思を確認したいと思いますので、事務局の方からもう一回再度出欠の確認をとります。場所はエポック中原から歩いて1分のところなので、一応みんなで歩いていけばわかるということになると思います。会費はここにありますように4,000円ですが、飲み放題ではないので、お酒に注意してくださいというのが幹事からのお願いです。

以上で、終わります。